



遊 道 楽 歩
(雑 感)



尊敬がない社会は不安定

長野 修二



目次

今の日本社会は尊敬が失われている社会のように思えます。

社会が安定（成長）しないのは経済が成長していませんことですが、それにしても経済が成長しないと多くの要素がうまくかみ合わなくなるようです。

その中でもコスト削減型の企業経営は、人材をコストと割り切ってしまうので企業社会は殺伐としたものとなっているのかもわかりません。

高度経済成長期、多くの人たちが企業内で協力することで企業は飛躍的な発展をしましたが、現在のように守りの経営では、協力よりはそれぞれの持ち場をより小さくしながら自分の身を守るように仕事をしているように思えてなりません。

尊敬できる上司や先輩も少ないのか、人がイキイキと仕事できるような職場環境にはなっていないようです。

私たちの時代、まさに転換点だったのでしょうか。

二度のオイルショックで経済成長に陰りがみえ、それぞれが勤めている企業でも成長できる企業と成長が止まる企業がでてきていました。

なかには倒産し社会から消えていく大手企業もみられるようになったものです。

その中で感じたことは、低成長の企業では上司や先輩たち、とくに経営の中核にいるような人たちに尊敬できる人が少ないと、感じたものです。

このことが転職の大きな要因でしたが、この企業の職場環境は人が協力しながら企業を成長させていく意欲に欠けていました。

挑戦することがない経営でしょうか。

当然、新規事業や既存事業の見直しなどおこなわれることはなく、毎年同じ施策の繰り返しになります。

愚痴や投げ槍な言葉が多く、社員同士の協力などあるはずがありません。

なにかに挑戦したい者には働きづらい企業です。

その後、成長企業へなんとか転職できましたが、そこで見る光景は、低成長企業でみる景色とはかなり違っていました。

まず経営者が尊敬できる人物だということ、そして上司や先輩の中に尊敬できる人がいてこのような人たちを中心に企業経営がおこなわれており、少々くせがある人間でも協力しながら物事が進められていました。

もちろん、愚痴や不満はそれぞれのレベルであるのですが、それを課題へ転換し、次の目標とするなど挑戦していく気概がありました。

また、そのような気概を受け入れて経営を進める経営者がいるので、その企業は毎年成長していました。

しかし、私が見てきたこのような事実にはまらい企業がありました。

現在でも高い成長を続けていますが、その企業に尊敬できる経営者や上司、先輩はいませんでした。

そこに見えるものは、やはりコスト削減型の成長でしょうか。

大きな利益を上げているにもかかわらず企業内は殺伐とした雰囲気があり、労務問題や安全上の問題が発生していることから、私には尊敬できない企業です。

私が在籍した企業でも殺伐とした雰囲気があり、経営者には、なにかあらたなことに挑戦する意欲などなく、うまくやり過ぎて次のステージに行くことしか頭にないようでした。

このような企業の特徴は、強い成長パターンをもち人材活用もコスト型でなにか新しいことに挑戦する意欲などありません。

私に言わせれば、人材コスト（非正規社員）と堅固なビジネスモデルによって収益がでているだけで経営の面白みがない企業でしょうか。

経営者が挑戦する意欲がないわけですから、社員がみな協力しながらなにか新たなビジネスに挑戦したり、現状の課題を克服して新たなステージを作り上げるといったことはありません。

会議でも社員の意欲を感じるような活発な議論はなく、ただ時間が過ぎるというだけでしょいか。

日常の会話からして人を尊敬するなどといったことを感じる事ができません。

高収益だけど、なんだか貧しさを感じる企業です。

成長する企業だけに尊敬できる人たちがいるわけではありません。

やはり尊敬できる人たちがいるかどうかは、企業経営を担う経営者の姿勢なのかもわかりません。

家庭でも同じでしょう。

高所得の家の人が尊敬できる人たちばかりではないように、尊敬できる人が家庭の中にいるかどうかは、やはり所得ではなく人そのものによるのではないのでしょうか。

少なくとも尊敬できる人がいる家庭や企業では、みなで協力しながら物事が進められているように感じるのは、私だけでしょうか。

尊敬がない社会は不安定

著 長野修二

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
